

目次

地の塩、世の光として～社会資源としての信仰者の姿～	上山 要	6
夢を語り、信じて始め、途中でやめない		
～白浜・三段壁からのチャレンジ～	藤藪 庸一	19
社会資源と教会	渡辺 俊彦	32
クリスチャンカウンセリングを用いた患者の実存的苦痛のケア		
	磯部なぎさ	45
多死・格差社会の葬儀インフラを目指す NPO 法人おとむらい牧師隊		
	石村 修善	66
会いに行くキリスト教会	石川 有生	80
非認知能力と教会	浜田 献	91
信仰と心理学的・精神医学的便益	笹岡 靖	99
「聖書と精神医療研究会」設立趣意書		115
「聖書と精神医療研究会」規約		116
ジャーナルのバックナンバーと関連出版物		117
編集後記		125

はじめに

聖書と精神医療研究会では、2021年度のテーマを「社会資源としての教会・信仰者」としました。福音主義教会においては、ローザンヌ宣言以降、社会的にも開かれた教会形成を目指してきましたが、日本の教会は小さく、社会に対する影響力も弱いのが現状です。更に、コロナ禍にあつて、さまざまな教会の活動が制限される中で、今一度社会にある教会について、特に心の健康という観点から、焦点を当ててみたいと考えました。

巻頭メッセージにおいて、幕張聖書バプテスト教会の上山要氏は、宗教改革前後のイギリスにおける社会福祉の変化について解説し、現在の状況と重ね合わせながら、教会と社会との関係を考察しています。

白浜バプテスト基督教会の藤藪庸一氏は、自殺防止をはじめとして、地域にや生活に密着したさまざまな働きを和歌山県の白浜町で展開しています。藤藪氏の二十年を超える働きの裏にある思いをストレートに語っていただきました。

渡辺俊彦氏が牧会する上馬キリスト教会では、ディアコニアの働きとして子育てセミナー、ガン哲学外来、カウンセリングとソーシャルネットワーク、自立支援、緩和ケア研究会の五つの分野で展開しています。その働きの中心であるディアコニアの神学について論じています。

磯部なぎさ氏は、富山県にある国立大学病院に看護師として勤務しています。職場で出会うがん患者に対して、そして、圧倒的にキリスト教信仰を知らない方々に対して、クリスチャンとしてどのように接しているかを語ってくださいました。地域や職場という制限の中で、キリスト者がどのように地の塩・世の光として愛を示すことができるのかについて、試行錯誤を中で見つけた方法について証ししています。

石村修善氏は、福岡県においてプロテスタント教会専門の葬儀社を営む傍ら、

NPO 法人おとむらい牧師隊をスタートしました。この活動を始めるに至ったきっかけやこの活動をとおして出会った方々について文章をまとめていただきました。

ほとんどの人は、教会というと建物を連想しますが、石川有生氏が始めたのは、人々が集まってくる教会ではなく、人々に「会いに行くキリスト教会」でした。この教会の「牧仕(ぼくし)」として活動するようになったいきさつやその働きについて証ししています。

清水聖書バプテスト教会の浜田献氏の大きな関心の一つは、「スマホ・ネット依存」です。幼少期の子どもを持つ親がスマホ・ネット依存に陥ることによって、幼少期に「非認知能力」が育まれる機会が損なわれる可能性があります。浜田氏は、現代の教会という場において、どのように非認知能力を養うことができるのかについて、試論を展開しています。

成田キリスト教会の笹岡靖は、信仰者の信仰活動に大きな心理学的・精神医学的ベネフィットがあることをいくつかの研究成果を踏まえながら考察しています。

選りすぐりの力作を集めた第 40 号を発行できることは望外の喜びです。コロナ禍にあって、教会の働きがどのようにあるべきなのか、再検討を求められているようなこの時代に、本号がお役に立てることを期待しつつ、お届けいたします。

2021 年 11 月 15 日

編集代表 笹岡 靖